

一般質問

佐藤 昇 議員

平成29年第6回町議会（定例会）一般質問

3人の議員が登壇し、多岐に渡り白熱した議論が展開されました。



問

遠軽町出身の漫画家安彦良和氏によるファーストガンダム復活のための40周年大プロジェクトに向けて意欲を示す報道がなされました。

安彦氏は、遠軽町出身の著名人でもあり、昨年は遠軽高校等での講演を行った。遠軽高校が甲子園に出場した際には直筆のイラストを提供するなど、遠軽町に対して好意的な取り組みを進めていただいています。
(1)町としてプロジェクトに対して安彦氏と連携を取り「まちづくり、まちおこし」に活用するよきな考えはありませんか。

問

ファーストガンダム復活をきっかけとしたまちおこしは

答

情報収集に努め検討したい

(2)安彦氏をはじめとする遠軽町出身の著名人と協働しながら今後の「まちづくり」に生かしているような取り組みを進める考えはありませんか。

町長

(1)40周年を記念して、意欲を示しているとの報道だけでは現時点で質問にはつきりとお答えすることは難しいと判断します。
しかしながら、安彦氏が携わったアニメ「機動戦士ガンダム」は、多くのファンに長年愛され続けていることから、話題性や注目度が高まることとが予想されます。

このことから、ご本人をはじめ著作権を管理している会社などへ報道内容の確認をすることも、今後プロジェクトが「まちづくり、まちおこし」に活用できるかどうか情報収集に努めながら検討したいと考えます。

(2)町はこれまで、本町出身のさまざまな分野で活躍されている方々の繋がりを大切にしながら各種講演会や、研修会、スポーツ教室などまちづくりに資する取り組みを行ってきました。
本町出身の方の中には、芸術文化や、スポーツ分野に限らず、行政や経済

はないでしょうか。

町長

過去にもガンダムロードのようなものがないか検討したこともありませんが、実現には至りませんでした。
色々なハードルもあると思いますが、町側で何かできるものがあり、町のPRに資するものがあるとなれば、繰り返しになりますが、情報収集に努めてさらに検討していきたいと思えます。

界など第一線で活躍されている方が多くいます。安彦氏をはじめとする著名人の方々の協働に努めていきたいと思えます。

再問

(1)に関連して、プロジェクトに対しては積極的、能動的に進めていただきたいと考えています。

著作権や著作権のカベなどもあり、行政としてプロジェクトにかかわりが持てないとしても、この機会に独自でも何かできることはないのかということも考えていく必要で

この看板を町で見かけませんか？
これも安彦氏デザインのものです。



一般質問

岩澤 武征 議員



ただを質す!! 町政を

問

新聞報道では、道内市町村の75%を超える自治体で、子どもの医療費の助成が行われています。小学生以上に対する独自の助成制度を導入している自治体は、136市町村になっています。

その背景にあるのは、近隣の市町村の横ならび意識だと言われていますが、医療費の助成が子育て支援、少子化対策として有効であるという認識が広まってきたことが大きな理由と考えます。本町でも、子育て世代の強い要望があります。遠軽町は、さまざまな子ども・子育て支援事業

問

子どもの通院医療費に助成を

答

生まれる前から高校まで一貫した子育て支援を考えている

を実施していますが、さらに充実して、「子育てにやさしい町、安心して子育てできる町」だと町民の皆さんに安心してもらえるように、小学生以上の通院医療費の負担軽減策を実施すべきだと考えますが、町長の見解を伺います。

町長

子どもの医療費助成につきましては、8月23日付、北海道新聞報道のとおり、道内136市町村において独自の助成制度を実施しているところであって、遠軽町において中学生までの入院に対する助成を拡充して実

再問

2年前に作られた「遠軽町子ども・子育て支援事業計画」の中に、「家庭を取り巻く状況が変化している中、新しい支え合いの仕組みを構築する必要があります。」と述べています。

さらに、「子どもの健康やかな育ちと保護者の子

育てを社会全体で支援する環境を整備することを目的とする。」と謳っています。

町のアンケートには、「小学1年から大人と同じ3割は厳しい。小さい子どもほど病気になりやすいので、もっと病院に連れていきやすくしてほしい。隣町は小学生の医療費も0円でうらやましい。」「他のところは中学生まで無料とかあります。育児をするのに一番不満なことです。」という声があります。

遠軽町として、中学生までの医療費助成について、真剣に検討しなければ

ばならない時期にきていると考えますが、いかがですか。

町長 町全体の子育て支援として、生まれる前から高校まで一貫して考えております。

財源の話もあり、確かに今基金は増えてきていますが、大型事業も実施しており、これから償還も出てきます。

そういった意味で町としては比較的人口の多い遠軽町ではなかなか踏み出せないでおります。これからの子育て支援をさらに充実させなければならぬという私の考えもあります。やりましよう、なかなか今の時期に言い難いということもありますのでご理解願います。

町政を質す!!

一般質問

阿部 君枝 議員



問 近年、全国の自治体で子育て支援及び高齢者・障がい者支援の観点から紙おむつ専用のごみ袋の無料交付をする市町村が増えていきます。同趣旨で、ごみ袋の交付を行っている道内自治体の例をあげますと、旭川市では10ℓ用300枚、千歳市では20ℓ用を最大300枚、札幌市は10ℓ用と20ℓ用のいずれか選択し、有料ごみ袋を無料交付しています。また、北見市では本年6月から紙おむつ類の無料収集が始まりました。本町においても、子育て及び高齢者・障がい者

支援への経済的な負担軽減の方策として、紙おむつ類の無料収集を行う考えはありませんか。

町長 オホーツク管内の乳幼児に対する紙おむつ類のごみ袋無料化の実施状況は、ごみ収集が無料の西興部村を除く17市区町村のうち7市町が実施しております。遠軽町においては、予防接種等の助成や保健指導などの支援策を実施することにより経済的負担の軽減を図っています。次に、高齢者・障がい者に対する紙おむつ類のごみ袋無料化の実施状況

ですが、ごみ収集が無料の西興部村を除く17市区町村のうち2市町が実施しています。遠軽町では高齢者・障がい者に対する経済的な負担軽減のため、在宅介護用品支給事業として要介護3以上の方又は3歳以上の重度心身障害の方を家庭で介護する家族に対し紙おむつの支給を行っておりますが、この事業に該当しない要介護1以上の方につきましては、遠軽町社会福祉協議会が独自に支給しております。また、障害者日常生活用具給付事業として、同様にオムツ購入やストマ

装着の補助を実施することにより、経済的な負担軽減を図っておりますので、ご理解をお願いします。

再問 隣の北見市より転入された子育て中のお母さんより「北見市は紙おむつが無料収集で助かっていました。遠軽町も実施しないのですか。」との声をいただきました。紙おむつ類は、家庭で減量ができませんし、悪臭を放つため長時間家に置きたくない。回収日ごとに毎回捨てたい。



子育ての施策を考える

問 紙おむつ類のごみ回収無料化をする考えは

答 総合的な経済負担軽減を図っているのでご理解を

お尻ふきを紙おむつ類とし普通の半透明ごみ袋で「燃やすごみの日」に出す方法です。新ごみ焼却施設「えんがるクリーンセンター」の稼働と同時に実施する考えはありませんか。

町長 10月1日からごみ収集が変わりますので、そこには間に合わないのので、ご理解ください。